オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(28)(HP 収載)
－最新アナログシステムでの試聴(28)－

１．始めに

前報(27)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

２．モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 と Garrad401 を使用します。

Garrad401 は、今回も 47 研 4718 経由で再生します。

Garrad401→47 研 4718→TruPhase

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。また、Garrad401、47 研 4718 には、Crystal E を接続しています。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も、アンサンブルの曲です。

Novalis 150040-1

モーツアルト　London Night Music

Divertimento F-Dur

Divertimento B-Dur

Thohmas Fueri 指揮 Camerata Bern

２．モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

あまり知られていない Novalis 盤ということで、ZANDEN のリストにもなく、イコライザーカーブなどの特性が不明ですので、ZANDEN Model 120 の条件を替えながら聴いていきます。

LINN LP-12 の再生では、RIAA、正相、第 4 時定数 High から聴き始めますと、過度の広がり感があり、音が散漫ですので、逆相にします。そしてイコライザーカーブを RIAA から TELDEC、EMI、Columbia、DECCA と切り替えてみますと、音

の焦点があってくるのはTELDECかDECCAかというところですが、EMIのソフトな感触も良いのでEMIを採っておきます。この条件下で第4時定数はHighで良さそうです。このEMI、逆相、第4時定数Highでの印象は、ソフトで爽やかな演奏の印象ということになります。
Garrad401の再生では、LINN LP-12の再生と同様に、ソフトで爽やかな演奏の印象ですが、ややゲイン不足で弱弱しいところがあります。
Garrad401に関しては、前報(23)から前報(26)までは、Maranz7タイッププリ経由で、前報(27)から本報までは47研4718経由で聴いてきましたが、Maranz7タイッププリ経由の場合は、管球らしいウオームトーンであり、ゲインは十分ながら残留ノイズがあり、47研4718経由では、クリアーな音であり、Ortofon RoyalNではややゲイン不足気味のところがあります。

３．まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal Eの導入およびThorenTD124のターンテーブルシートの交換などの総合的な効果として、ソフトで爽やかな演奏の印象であり、LINN LP-12 とGarrad401の違いも聴きわけられます。

以上